

■ 「子供が言うことを聞かない…」

と困っていませんか？

修正： 2017.03.01

投稿： 2017.03.01



●「子供が言うことを聞かない…」と困っていませんか？①

言うことを聞かないのは、**言い方に問題があるから**です。

人は、他人から命令されることに、反発を覚えます。
部下が上司の命令に反発する、子供が親の命令に反発する、などなど、
真っ向から言い返してくる人もいれば、単純に無視するだけの人もおり、
反発の仕方はさまざまです。

例えば、もし、あなたが親で、自分の子供に対して、
「**他人には優しくしなさい！**」と、しつこく言いつけ続けた場合、
あなたの子供は、逆に、**他人に優しくしなくなる可能性があります。**

なぜなら、他人に優しくすることは、
ウザったい親の言いつけを受け入れ、
親に服従することにつながるからです。

そうならないようにするため、子供は、
あえて親の言いつけとは反対の行動を取り、
つまり、他人に乱暴に接するようになり、
「**親の言うことは聞かない**」ということを**意思表示**することがあります。

子供のこういった態度に対して、親は、
「なんで親の言うことが聞けないの?!」と、
理解に苦しむことがしばしばでしょう。

**親としては正しい知識を教えてあげたつもりなのに、
子供はそれを命令として受け取り、反発してくる。**

なぜこうも、コミュニケーションに失敗してしまうのでしょうか？

(続)

//=====//

●「子供が言うことを聞かない…」と困っていませんか？②

なぜこうも、親と子供でコミュニケーションが上手くいかないかというと、それは、**親と子供で、伝えようとしていることがそもそも違うため**です。

親が子供に「**他人には優しくしなさい！**」と厳しく言いつけるのは、そうした方がいいからでしょう。これは、社会人を経験した、親の経験則です。

一方、そう言われた子供が、親の言うことを聞かないのは、**「お前に言われて、自分の生き方を決めるつもりはない！」**という意思表示です。

つまり、親が生き方という経験則を伝えているのに対して、子供は**「命令しないでほしい」という意思を返している**のです。

経験則を伝える親と、意志を伝える子供、もうこの時点で、話が噛み合っていません。ゆえに、頭ごなしに説教しているのだとすれば、当然、コミュニケーションはことごとく失敗します。

親の方が力は強いので、イライラが頂点に達したとき、親「うるさい、なんで親の言うことが聞けないんだ！」
子供「うわああああんんんん！！！」
となり、**子供の心の中では、憎しみの種が植えつけられることとなります。**
(種が蒔かれたということです)

こんなことを繰り返しては、そのうち親子関係は破綻するでしょう。そのままにしておくと、いつか力関係が逆転したとき、**抑圧され続けた感情は、醜い形となって親に向けられます。**
(「内から外へ」の原則です)

ではどうすれば、子供に拒絶されることなく、
親の経験則を伝えることができるでしょうか？

(続)

//=====//

●「子供が言うことを聞かない…」と困っていませんか？③

親と子のコミュニケーションでは、内容(何を伝えるか)より、
言い方(どう伝えるか)に注意しなければなりません。

親が子供に「**他人には優しくしなさい！**」と厳しく言いつけると、
子供はむしろ**他人に乱暴に振る舞う**ことがあります。
それを見つけた親は、さらに躍起になって子供を叱りつけようとしませんが、
そうすればそうするほど、子供の反発は強まります。

「**もぉ～ほんとーに親の言うこと聞かないんだからぁ…**」と、
子供のそういった態度に苦心することもしばしばでしょう。
では、どのように接すれば子供に反発されることなく、
親の言いたいことを子供に伝えることができるのでしょうか？

まず、子供が親の言うことを聞かなかったとき、
必ずしも「**親の考え方を否定したわけではない**」
ということを心得ておかなければなりません。

子供が主張したいことは、
「お前の言う通りに生きるつもりはない！」
ということなのであって、
「お前の主張は間違っている！」

と、親の意見そのものを否定したいわけではありません。

このことを念頭においた上で、良好な親子関係を目指します。

では、どう接すればいいのでしょうか？

…。

その答えは意外と簡単です。

命令するのをやめてしまえばいいのです。

命令すれば拒絶される、のであれば、

命令することをやめてしまえばいいのです。

簡単な話です。

だとすれば、具体的に、何をどう変えていけばいいのでしょうか？

(続)

//=====//

●「子供が言うことを聞かない…」と困っていませんか？④

子供に「他人には優しくしなさい！」と厳しく言いつければ、

その子供は、むしろ他人に乱暴に振る舞うことがあります。

だからこそ、「～しなさい！」という**命令形式**はできるだけ避け、

「～した方がいいのでは？」などのような、**提案形式で伝えることが望まれます。**

具体的には、「他人には優しくしなさい！」と言うのではなく、

「他人には優しくした方がいいのでは？」と、提案の形式で伝えることです。

「ナニソレ、ただ疑問形になっただけじゃん！

そんなんで、何か効果あるの？」と疑問に思われるかもしれません。

確かに疑問形にはなりました。が、そんな微々たる差ではありません。
命令形式と提案形式は、根本的に違います。何が違うかというと、

「～しなさい！」の場合は、話し手が意思決定しているのに対して、

「～した方がいいのでは？」の場合は、聞き手が意思決定することになります。

つまり、「意思決定する人」が違います。

命令形式では、相手に強い反発心を起こさせます。

これを無理矢理押さえつけていては、いつか爆発することでしょう。

子供が親の力を上回ったとき、親は子供を抑えられなくなります。

やり場のない怒りから学校で頻繁に問題を起こす我が子を心配して、
わらにもすがる思いで、心理カウンセラに頼る親も大勢います。

できればそのようなことにならないようにするためにも、

できる限り命令形式は避け、日々日頃から提案形式を心がけ、

意志決定権を子供に手渡し、解放していくことが望まれます。

(続)

//=====//

●「子供が言うことを聞かない…」と困っていませんか？⑤

子供が部屋の片づけをしないなら、

「片づけしなさい」と命令するのではなく、

「片づけした方がいいのでは？」と提案するのです。

子供が勉強をしないなら、
「勉強しなさい」と**命令するのではなく**、
「勉強した方がいいのでは？」と**提案する**のです。

何かに付けて命令形式で接していれば、
その度に不満が溜まり、やがて爆発することでしょう。
提案形式ならば、「**嫌ならしくてもいい**」
ということを前提としており、不満が溜まることもありません。

ただし、注意しなければならないこととして、
**いくら提案形式を心がけていたとしても、
雰囲気は命令形式であれば意味がありません。**

「勉強した方がいいのでは？」としつつも、
Yes としか答えられない強制的な雰囲気では、
命令形式でしかありません。

提案形式では、「どうするのか」は相手に委ねています。
そこを親がコントロールしてしまうなら、それは命令形式です。
「勉強した方がいいのでは？」という提案に対して、
「勉強しない」という選択肢を堂々と答えられる状況でないなら、
それは本当の意味で提案形式とは呼べません。

**提案形式は、ときとして、子供のよろしくない振る舞いも、
一旦、あえて受け入れる姿勢が必要です。**

このため、子供の成長を長い目で見ることのできない親は、
ついつい命令形式で子供に接してしまいがちです。

誤った子供の言動や行動に反応し、すぐに子供の行動を変えようとします。
その度に親子関係にひびが入っていくことになります。
提案形式で接するためには、強い忍耐力が必要なのです。

しかし、もし提案形式を心がけているにもかかわらず、
子供からはいつも「嫌だ！嫌だ！」と答えられてしまうような場合は
どうすればいいのでしょうか？
これについて、また機会があれば、

より詳しく提案形式をお伝えしていきたいと思います。

参考までに、こういった話は、

「アドラー心理学」と称される心理学のカテゴリの文献で
盛んに取り上げて解説されています。

興味のある方は参照してみてはどうでしょうか。

(完)

//=====//

Web サイト：

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者：

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)